

社会科学習指導略案

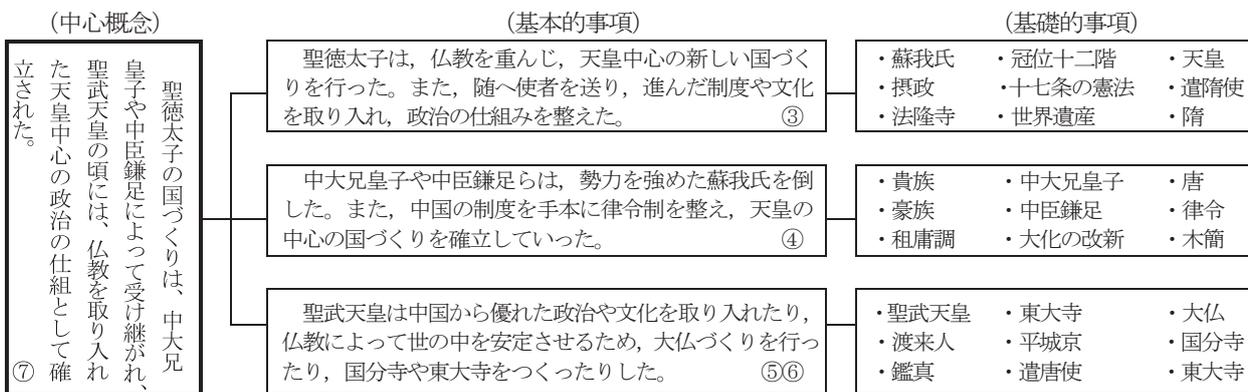
6年2組 37名 指導者 御領原 尚 弘

社会

本授業では、以下の検証を行うものである。
協働的な「学び合い」を通し、調べたことや分かったことを関連付けたり、子ども同士で考えをつなぎ、共有したりすることは、考えを再構築する手立てとして有効であったか。

1 小単元 天皇中心の国づくり (大単元 1 日本の歴史)

2 小単元の構造について (概念構想図) ※○数字は時数



3 指導計画 (総時数 8 時間)

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
つかむ・見通す	1 聖武天皇が作らせた大仏の大きさから、天皇の力の大きさについて考え、大きな力をもった理由について予想し、学習問題を設定する。 天皇は、どのような国づくりを進め、大きな力をもつようになったのだろう。 【関・意・態】 天皇の力とその影響について予想し、天皇中心の国づくりについて興味をもち、意欲的に学習計画を立てようとしている。	1
	2 学習問題について予想し、学習計画(追究の柱)を立てる。 ◎ 聖徳太子の政治 ◎ 天皇の力が広がってきた理由 ◎ 聖武天皇の政治 ◎ 大陸の文化とその影響 大王や豪族を中心とした大和朝廷における国づくりと天皇が進めようとした国づくりを比較し、類似点や相違点について考えることで、学習問題や追究の柱を立てられるようにする。	1
調べる	3 調べたい追究の柱ごとにグループをつくり、資料をもとに個人やグループで調べ、全体で話し合う。 (1) 聖徳太子はどのようにして、天皇中心の政治を始めようとしたのか。 (2) なぜ、天皇の力が広がっていったのか。 (3) 聖武天皇はどのような政治を行い、どのように力を付けていったのか。 (4) 大陸の文化は、日本の文化にどのような影響を与えたのか。 【知・理】 大陸文化の摂取や大化の改新、律令制の仕組やその影響について理解している。 【技】 天皇中心の国づくりについて、資料からの確かな情報を読み取り、図表や文にまとめている。 大陸の文化や制度の摂取、大化の改新や仏教の広がり、律令制についてそれぞれ調べ、分かったことを「見える図」等にまとめることで、中心概念に迫ることができるようにする。	1 1 1 1
まとめる・生かす	4 これまで調べてきたことをもとに学習問題についてまとめる。 【思・判・表】 天皇中心の国づくりが、どのように広がっていったのか、学習を通し、分かったことや気付いたことを比較したり、関連付けたりしながら考えている。 大陸の進んだ文化や制度を取り入れ、律令制が整えられたり、仏教が広がったりしたことで天皇は、全国に影響を与えるほどの大きな力をもつようになった。	1 (本時)
	5 天皇中心の国づくりや政治が、その後の人々の暮らしにどのような影響を与えたのかを考える。 それぞれの追究の柱ごとに調べ、明らかにしてきたことを関連付けることで、天皇中心の国づくりが確立した背景について考え、その影響が現在の鹿児島県にまで及んでいたということを捉えることができるようにする。	1

4 本時(7/8)

(1) 目標

全国に影響を与えるほどの天皇中心の国づくりが確立した理由について、聖徳太子の政治や大化の改新、律令制など、これまでに学習してきたことを関連付けながら考えることができるようにする。

(2) 評価規準

天皇中心の国づくりが確立した理由について、聖徳太子の政治や大化の改新、律令制など、これまでに学習してきたことを関連付けながら考え、表現している。【社会的な思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

「つかむ・見通す」過程では、天皇中心の国づくりをめざした人物の功績を振り返りながら、それぞれの功績や取組の類似点や相違点に気付かせるとともに、それらがどのように関連しているのか予想させる。

「調べる」過程では、天皇中心の国づくりをめざした人物のそれぞれの功績とその背景にある願いを関連付けながら、「見える図」等を活用し、まとめることで、天皇中心の国づくりが確立した理由について考えることができるようにする。

「まとめる」過程では、天皇中心の国づくりの影響が、都だけではなく、自分たちの住んでいる地域にまで影響していたということに気付かせることで、天皇の力の大きさや社会に与えて影響を踏まえて、自分の考えを再構築できるようにする。

(4) 本時の展開 重点化するスキル [] 子どもの意識 ○ 指導の手立て ※ 評価

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	(分) 5	1 前時の学習の振り返りをする。 ・ 大陸の文化の影響を受け、中国風の文化が広まっていたな。 2 本時のめあてや学習の流れを確認する。 天皇は、どのような国づくりを進め、大きな力をもつようになったのだろう。	○ これまでの学習を振り返り、本時の学習の目的を明確に捉えさせる。 ○ 天皇中心の国づくりをめざした人物のそれぞれの功績について比較し、それらの功績の類似点や相違点に対する興味・関心を高める。
調べる	30	3 天皇中心の国づくりが確立した理由について自分の考えをまとめる。 4 「見える図」を活用し、天皇中心の国づくりについて考え、グループごとに話し合う。 関連付ける ・ 聖徳太子も聖武天皇も、仏教を広めることで国づくりを進めていたな。 ・ 大化の改新にも、大陸の文化や制度が影響していたな。 5 MD法を行い、それぞれのグループごとに話し合ったことを共有する。 ・ 「仏教の力で、社会を平和にしたい」という願いに気付いたのは、○班と同じだな。 ・ どの取組にも大陸の文化や制度が影響しているな。 6 薩摩国分寺と大隅国分寺の事例をもとに天皇の力の大きさについて考える。 ・ 聖武天皇の願いはとて強かったのだな。 ・ 天皇中心の国づくりの影響は、私たちの住む地域にも影響していたのだな。	○ 「見える図」を活用し、聖徳太子の政治や大化の改新、聖武天皇の政治とそれらのことに関わった人物の願いを関連付けることで天皇中心の国づくりが確立した理由について考えることができるようにする。 ※ 天皇中心の国づくりが確立した理由について、関連付けながら考え、まとめることができたか。(ワークシート) ○ まとめることができた子どもには、それぞれの功績の背景にある歴史上の人物の願いに着目させ、それぞれの功績の関係性についてより詳しく考えさせる。 ○ 複数の事象を関連付けて、まとめることができていない子どもには、それぞれの事象の共通点を考えさせる。 ○ それぞれのグループの意見を発表させる際は、疑問に思ったことなどを出し合わせることで、互いの意見につながりをもたせるようにする。
まとめる・生かす	10	7 それぞれのグループでまとめたことを全体で共有し、まとめ文を書く。 8 本時の学習についてまとめる。 大陸の進んだ文化や制度を取り入れたことで天皇は、全国に影響を与えるほどの大きな力をもつようになった。 9 本時の学習について振り返る。	○ まとめ文を書かせる際は、小単元の最初に立てた予想とグループ内で話し合った後の、自己の考えの変容に気付かせるようにする。 ○ 学習の振り返りの際は、本時の学習内容だけでなく、協働的な「学び合い」についても振り返らせるようにする。